

# 難治性統合失調症の治療薬 非定型抗精神病薬クロザピン

徳島大学病院精神科神経科で平成21年より取り入れている最新の治療法について説明します。

## 統合失調症とは？

発症の原因が解明されていない病気です。現在では遺伝・感染症・ストレスなど様々な因子が複雑に作用し、発症すると考えられています。初期には気分の低下、意欲の低下などを認めるため、うつ病と見分けがつきにくい場合もありますが、進行していくと明らかに異なる症状を呈します。

### 主な症状

**陽性症状** 幻覚・妄想

**陰性症状** 感情(喜怒哀楽)や意欲の低下、無関心

**感情症状** 抑うつ、不安

**認知関連症状** 状況の把握・判断・識別が困難

## 難治性症例への 治療薬『クロザピン』

基本の治療法は薬物治療ですが、抗精神病薬の服薬を続けていても改善が見られない場合や、副作用により十分な量の投与ができない場合は、特徴の異なる別の治療薬へ切り替えます。それでも改善されない難治性の統合失調症患者に唯一の有効性を示している治療薬が『クロザピン』です。

クロザピンの治療中に重篤な副作用を起こすことがあるため、適用に基準があり(\*1)、投薬開始18週は入院治療、26週までは週1回の血液検査、27週目以降は二週間に1回の血液検査が必要となります。

(\*1)詳しい適用の基準については、主治医にご相談ください。

徳島大学病院では他施設で治療を受けていても症状が改善しない難治性の患者さんの紹介を受け入れ、これらの患者さんにクロザピンを導入して、多くの症例で治療効果を認めています。また、総合病院の利点として、クロザピンによる顆粒球の減少や血糖異常の症状などの副作用に対し、血液内科医や糖尿病医と連携をし、速やかに対応することが可能です。

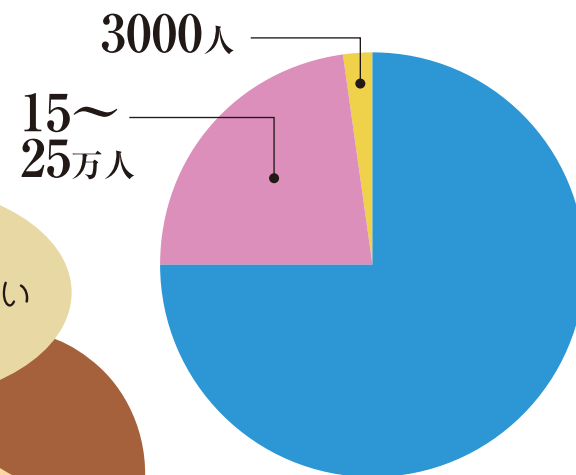
## 読者の皆様へ

15万から25万人いると考えられている難治性統合失調症患者のうち、現在クロザピン治療を受けている患者数は3000名程度にとどまっています。クロザピンによる治療はまだ周知が浅く、患者さん自身・ご家族にも広く知られていないのが現状です。治療の成果により、少しでも多くの患者さんがよりよい生活を送れることを目標としています。お知り合いに該当される方がいらっしゃいましたら、本院で積極的に受け入れておりますことをお伝えください。



■説明は  
徳島大学病院  
精神科神経科  
講師 沼田周助 先生  
■問い合わせ先  
TEL/088-633-7128

## 統合失調症患者(70~80万人)



なんでもご相談下さい

詳しく教えてください

- 既存の抗精神病薬で治療効果のある統合失調症
- クロザピン治療が導入されていない難治性統合失調症
- クロザピンで治療中の難治性統合失調症